

第百回 小樽商科大学－北海道大学総合定期戦
硬式野球戦 商大 大勝利！

平成 26 年 7 月 6 日
小樽商科大学応援団後援会
文責 小西 一郎

- 1 日 時 平成 26 年 7 月 6 日(日) 12 時 58 分～15 時 30 分
- 2 場 所 北海道大学球場
- 3 応 援 第 100 代団長西垣 参謀鈴木 団旗長田中 鼓手長白倉
新参大竹、小野寺、寺林、三岡
学内 0B 第 98 代団長太田、副団長横濱 参謀田口
第 99 代団長堀井
商大応援団後援会 神田、小西

4 内 容

1912(明治 45)年 5 月の小樽高等商業学校と東北帝国大学農科大学との野球戦から百有余年、総合定期戦の嚆矢となりました伝統の一戦が、北大球場を舞台に今年も行われました。現在、商大硬式野球部は札幌学生野球春季リーグ 2 部の 6 位、一方、北大は同 1 部 4 位にあります。

しかし、リーグの順位等、全てを超越した戦いがあります。それが北大との一戦です。数々のドラマをもたらしてくれた定期戦、其の歴史に又、新たな 1 ページが加えられました。

商大が北大を下し、見事勝利を収めました。

商大の先発は背番号 17 番の城地君。北大をしっかりと抑え 2 回まで無失点としました。3 回裏北大の攻撃で、2 アウトながらランナー 1・2 塁となりました。続く打者にフォアボールを与え満塁となりました。次のバッターもフォアボール、北大が先制点を奪取！しかしこの後はきっちりと抑え、追加点を許しませんでした。

続く 4 回表、商大の反攻が始まりました。

ランナー 1、2 塁のところで長打が炸裂。打者が 3 塁に向かう間にランナー 2 人が生還、北大を逆転しました。木端微塵に打ち破り 勝利の栄冠我にあり 残念か残念か 残念なら又来んせ の歌声が球場いっぱい響き、団員・学内 0B によるストームが行われました。其の直後、キャッチャーの牽制球を北大の三塁手が後逸、商大は更に 1 点を加えました。ストームの熱が更に更にヒートアップしたのは申し上げる迄ありません。

6 回裏、1 アウトを取ったところで商大のピッチャーが 12 番大野君に変わりました。1 点を許しましたが後続を断ち、北大に付け入る隙を与えません。

商大は 8 回にも 2 点を加え 5 点としました。追加点を取りたい北大は其の裏に 1 点を取りました。しかし北大の攻撃も此処まで。5 対 3 で商大が勝利を収めました。

商大が硬式野球定期戦で勝利するのは、2011 年 7 月 3 日(日)商大グランドでの一戦以来です。其の時のスコアは 6 対 2 でした。

商大応援団は、新参が代わる代わる両手に扇子を持ち、終始、選手一人一人の名前を上げてのエールやアイチャンスによる応援を実施、商大側は声も枯れんばかりに応援をしました。団の先導に従い、商大勢一同、試合開始前の校歌に続き、応援歌、壮行歌、進軍歌を唄い商大の士気を大いに高めました。

(寮歌交換)

試合終了後、両校の選手がベンチ前に整列、寮歌斉唱とエール交換となりました。勝利校優先ということで、商大が団長西垣の口上と先導により若人逍遥の歌を斉唱、団旗長田中がグラウンド内に入り団旗エールを行いました。続いて北大が都ぞ弥生を斉唱、同じく団旗エールを行いました。

(最後に)

対面式と硬式野球等の競技応援との調整、体育会本部の協力、各部との連携そして現役学生の競技応援への動員等、課題は山積です。来年は商大が当番校となります。定期戦での商大大勝利に向かって、団と共に邁進する所存でございます。



商大の猛攻



商大応援団陣形



城地君の力投



新参による応援



はためく応援旗



大野君、北大を抑える



取るぞ、追加点!

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
神子	0	0	3	0	0	0	2	0					5
北大	0	0	1	0	0	1	0	1	0				3

商大 見事大勝利!



北大球場での勝利の団旗エール

以上